

平成28年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の学習意欲を高める授業を 実践し、確かな 学力と筋道を立 てて書く力を育 成する。	① 生徒に興味・関心を持 って授業に取り組 ませ、学力向上を図 る。	教務課 全職員	昨年度後期の「学校 評価アンケート」で は、授業がわかりや すいと答えた生徒が 83%であり、授業評 価集計結果は81%で あった。今年度も引 き続き授業改善に取り 組む。	【満足度指標】 授業がわかりやす いと感じる生徒が 増加したか。	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合 が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場 合、授業方法及び 内容を検討する。	前期、後期に 全生徒にアン ケート調査
	② 各種検定試験を通し て学習意欲を高め る。	教務課 商業科	昨年度3年生の1級 3種目取得者は164 人であった。今年度 は同等以上の取得者 が出るよう指導して いきたい。	【成果指標】 3年生の資格の取 得の意欲が向上 し、資格を取得で きたか。	3年生の1級3種目の取得者が、 A 165人以上である B 160人以上である C 155人以上である D 155人未満である	評価がC、Dの場 合、指導方法及び 内容を検討する。	2月に担当課 で集計
	③ ICTを有効に活用 した授業を研究し、 実践する。	教務課	昨年度後期で66%強 の教員がICT機器 を有効に活用して授 業を行っているが、 生徒からの肯定的評 価は51%に止まって いる。更なる改善を 進めていきたい。	【努力指標】 ICTを有効に活 用した授業を実践 する。	ICTを有効に活用した授業を実践した 教員の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場 合、改善策を検討 する。	前期に中間集 計、後期に最 終集計
	④ 授業やLHの中で文章 を書かせる場面をよ り多く設け、「筋道 を立てて書く力」を 育成する。	各学年 商業科 各教科	昨年度の学校評価ア ンケートでの肯定的 評価は、1年66%、 2年61%、3年 79%。特に2年生で 文章を書くことに費 やす時間が少ない傾 向がある。	【満足度指標】 「筋道を立てて書 く力が向上した」 と感じる生徒が増 加したか。	「筋道を立てて書く力が向上した」と感 じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場 合、方法及び内容 を検討する。	前期、後期に 全生徒にアン ケート調査

平成28年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見たさわやかな挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 特活課	昨年度の学校評価アンケートでは、肯定的評価は91%。実感ではまだ向上の余地はあると思われる。	【成果指標】 相手の顔と目を見てさわやかな挨拶ができたか。	年間を通して相手の顔と目を見たさわやかな挨拶ができた生徒の割合が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査
	② 生徒指導が主となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課	昨年度は遅刻0の日が110日となり、一昨年71日を大きく上回った。	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っているか。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 100日以上である B 80日以上である C 60日以上である D 60日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査
	③ 実践教育とマナー教育の一環である金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートでは、仕入から販売及び管理・運営など、実践教育とビジネスマナー教育の場として位置付けられており、生徒も積極的に取り組んでいる。今年度は全国産業フェアとのタイアップで更なる充実を図りたい。	【努力目標】 金商デパートにおいて学校で学んだことを生かしたか。	金商デパートにおいて、学校で学んだことを生かした生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査
	④ 英会話力育成の充実に取り組む。	英語科	昨年度は総計で130名が目標を達成した。より実践的な英会話の基礎力を育成し、取得者の増加を図りたい。	【成果指標】 英会話の基礎的なコミュニケーション能力が生徒に定着したか。	1・2年生で全商の英検2級を取得した人数が、 A 120名以上である B 100名以上である C 80名以上である D 80名未満である	評価がC、Dの場合、英語が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	全商の英検2級の合格者を調査

平成28年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施して、進路実現を図る。	進路指導課	昨年度は学校内でも進路ガイダンスをはじめ、キャリア教育に力を注いできた。求人数も増加し生徒の希望職種への受験も可能となった。雇用状況も回復し、今年度も合格率の向上と、企業への定着率を促進する指導を進めたい。	【成果指標】 進路実現に向けて具体的な取り組みができたか。	ガイダンスや面接指導を通じて、希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に就職希望の3年生対象にアンケートを調査
	② 補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を高める。	進路指導課	昨年度の評価はA評価であった。ただし、3年生への働きかけは充実しているが、1・2年生への情報提供の満足度はいずれも70%であり、更なる取組内容を吟味していく必要がある。	【成果指標】 しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めたか。	しっかりとした目的意識と学習意欲を持って受験勉強に取り組む、学力向上に努めたと答えた生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に進学希望の3年生対象にアンケートを調査
	③ 1・2年次より、計画的にキャリア教育を行ない、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 各学年	昨年度の評価はA評価であったが、上記②と同様である。早い段階から希望進路への取組内容を吟味・充実する必要がある。	【成果指標】 希望進路に向けた具体的な取り組みができたか。	希望する進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	後期に2年生対象にアンケートを調査

平成28年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 4

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	昨年度は駅伝・男子卓球・女子バレー・バドミントン・ソフトテニス・少林寺拳法・ソフトボールの8部が「ベスト4」以上を達成している。	【成果指標】 ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができたか。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝をのべ3競技以上を目指す。	商業科 特活課	昨年度県大会では、珠算・電卓部で団体・個人優勝、ワープロ部個人優勝、かると部団体優勝と躍進した。	【成果指標】 団体での優勝が、目標を上回ることができたか。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ6競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	部活動単位でボランティア活動を行った結果、昨年度のボランティア活動に取り組む生徒の割合は77%であった。	【成果指標】 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めたか。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒がもち、自主的に行動することを目指す。	保健課	昨年度は96%でA評価。毎日の清掃と週2回のゴミ収集をきちんと行い、ゴミ分別も美化委員の協力の元、きちんと行われている。節電・節水については気候の変動に大きく影響を受けている。	【成果指標】 美化委員を中心に清潔な環境の維持に努め、清掃・節電・節水やゴミ分別の意識を高められたか。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒にアンケート調査